



押野 裕氏プロフィール

昭和 42 年神奈川県小田原市生れ。平成 7 年小田原俳句入門講座にて俳句入門、小澤實に師事。平成 8 年「鷹」入会。平成 12 年「鷹」を退会し、「澤」創刊に参加。「澤」編集部員となる。平成 15 年澤新人賞受賞。平成 17 年「澤」編集長に就任。平成 20 年「澤」編集長を退任。「澤」同人。俳人協会会員。

『雲の座』

(自選15句)

押野

裕

九天より大きき蜜柑の落ちにけり
機関庫に十の機関車秋高し
父母に戦後ありけり豆の花
石段に折れ炎天のわが影は
子の尿の燦燦として山眠る
君が家へ君と歩くや夜の躑躅
桐の実や雲の座として鈴ヶ岳
負鶏を蛇口の水に洗ひをり
瓜盗人カメウの死角目に測る
パソコンにはかと言ふ人枇杷の花
春月や渋谷の底に酒酌める
薄氷の上なる水や吹かれをる
ちりとり蓋あけ落花さつと捨つ
木屋や団地A棟永遠にA
わが肩に生ひ出で曼珠沙華高し